

Ⅵ. 高校3年生 評価の実際

川合勇治
福谷 敏

- (b) 卒業論文「自立を求めて－生き方を考える－」を書くことを通して自己をみつめ、自分の「生き方」を考えることができたか。
- (c) 学び合い「生き方を考える」を通してお互いに意見交換をすることができたか。

①学年末の評価項目

- (a) 「社会と自分の進路」について、幅広い理解と知識をもつことができたか。

②学年末の評定

| 総 合 | A | B | C |
|------------------|---|---|---|
| a 進路先訪問調査報告会 | a | b | c |
| b スピーチ「社会と自分の進路」 | a | b | c |
| c 卒業論文「自立を求めて」 | a | b | c |
| d 学び合い「生き方を考える」 | a | b | c |
| e 出欠席 | a | b | c |

(A 109名 B 4名 C 0名)

③自己評価と相互評価と教師評価

『d 学び合い「生き方を考える」』のスピーチ者は、分科会ごとに行われた『b スピーチ「社会と自分の進路」』で相互評価の集計結果で選ばれたスピーチ者である。彼らが、他の分科会で自分の「生き方」についてスピーチをした。そのスピーチをお互いに聞き合って、さまざまな「生き方」について考え合い、意見交換をし学びあった。その時の相互評価表はスピーチ者の手元に返却されるので、自己評価表と相互評価表との比較をすることができる。客観的な自己認識ができた。

また、教師評価は授業時間ごとに「先生の話」として、コメントとして行った。ただし『c 卒業論文「自立を求めて」』の執筆では、下書き・推

敲・清書の各段階に応じて、個々の生徒の原稿用紙に、内容・表現（誤字脱字）などのチェックとともに、文章で朱を入れる形で行った。

④評価における問題点

高3総合人間科の目標は「人間の在り方、生き方」を、一人ひとりが自分自身の中で明確なものとして認識することから自覚的な「人生の選択」をすることである。だから自己評価が基本になる。しかし、自己評価の持つ問題点は、評価項目を理解し「人間の在り方、生き方」をよく考えて選択したものほど、自分自身を厳しく評価し、低い点数で評価をすることにある。